

# 「次亜塩素酸水」の先駆者として 実用性の高い噴霧器を次々に開発

ESI(株)

札幌市南区真駒内柏丘11丁目1番地103号  
TEL (011) 211-5525  
http://www.esi-c.com/

新型コロナウイルスの活性化が証明され、「除菌や消臭に有効」と注目される次亜塩素酸水。新参業者が次々と現れるなか、「本当に良いものを」と信念をもって噴霧器を開発するESI・菊地匡彦社長は「16年前、北海道で初めて次亜塩素酸水の販売を手掛けたのが私。コロナ流行の遙かに以前からその効能を広めてきた。今後も新たな市場で成長していくと思



▲菊地匡彦社長

う」と力を込める。ESIは現在、「クリアランス」をブランド名とする次亜塩素酸水の超音波霧化器や生成パウダーなどを取り扱っており、菊地社長はこのパウダーを「画期的な商品」とこう語る。「次亜塩素酸水は保管にとても注意が必要。暗所で涼しいところに置くのが理想ですが、それでも長期の大量保存は難しい。このパウダーによって、6年間の品質保証ができました」さらにインパクトのある商品がこの9月以降に次々と発売される。一つは、「クリアランス・



▲「クリアランス・ハンディナノミスト」

ハンディナノミスト」。写真でおわかりのように携行型で「いつ、どこでも、必要な時」に次亜塩素酸水を噴霧できるのが特徴だ。「12ミリの溶液で、5秒間の噴霧が70回できる。US

ズが高まると思っています」  
同社の空間噴霧の技術力は北海道の酪農・畜産の現場でも立証されている。上士幌町に本社



▲「クリアランス・スーパージェット」で噴霧する菊地貴俊常務

Bによる充電式。溶液のスペアを継ぎ足すことで繰り返し使うことも可能。家庭に一つではなく、ひとつに一つ。5種類のカラーを用意しています(菊地社長)もう一つは、「クリアランス・スーパージェット」だ。肩にかけて消火器のように噴霧する方法で一気に、強烈に8〜10メートル先まで飛ばせる。「特約代理店のあかりみらい・越智文雄社長がデモンストレーションで道内自治体を回ったところ、すごい引き合いだったと聞いています。公共施設や学校、オフィスなどでニーズが高まると思っています」

「子牛は病原菌に弱い。牧場ではそれまでも次亜塩素酸水の噴霧を行っていたのですが、真冬はどうしても凍ってしまう。相談を受けて寒地対応型の技術開発に努め、氷点下30℃でフル稼働できた。簡単に言うとう、ミクロの氷の霧が牛に落ち、牛の体温によって復活する。11月頃から広範囲で展開していく考えです(菊地社長)

を置くノベルズ研究所と業務提携しており、肉牛育成牧場では、子牛の感染症や死亡率を大幅に減少できたようだ。